

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームななかまど大麻	評価実施年月日	平成21年10月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>今までの生活を基盤とし、地域での役割を失わないと言う意味もこめ、その人らしい生活を保つという理念を作り、事業所内に掲示している。また、パンフレットや重要事項説明書にも記載し明文化している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者は職員会議及び日常生活の中で理念に基づく運営方針を具体化し、日常的に職員に話している。また、申し送りで確認している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域の方々にホームの行事に来てもらうなど、地域の関わりを大切にしながら、啓発活動に取り組んでいる。また、運営推進会議を2カ月に1回開催し、家族と地域の人々が顔を合わせる中で理念についても説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>利用者と、買い物・散歩・ゴミ捨てなどに行った時など、近隣の方と挨拶をしたり、積極的に声をかけている。また、夏祭り等の催しも案内し近隣との交流もある。</p>		<p>町内会の行事にも積極的に参加し、利用者・職員共に近所の方々と顔なじみの関係を築いている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事は積極的に参加している。</p>		<p>神社のお祭り。町内会のバーベキューや日帰り温泉などには積極的に参加している。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>民生委員の研修の場として施設を利用して頂いたり、民生委員の会合に参加して認知症高齢者の理解を深めてもらう様努めている。</p>		<p>職員の意識の中に地域に貢献していることを自覚させる。地域住民に対して年に1度認知症高齢者の講演会を開催している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	実際に職員が自己評価をし、管理者の説明や訂正などを行っている。また、会議や日常生活において、改善にむけ話し合い・実行している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度、運営推進会議を行い、話し合いをし、意見やサービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	役所に書類など提出する際には担当者と顔を合わせ、近況など話す機会を設けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	月に一度職員の勉強会で制度について学ぶ機会をもっているが、活用までにはいたっていない。	○	現在は対象者がいないが、対象者が出てきた場合には直ぐに対応できるように繰り返し学んでいきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月に1度の職員会議や勉強会、また、ニュースなどで虐待がとりあげられている時など、話し合いをし、未然にふせいでいる。また、職員は虐待についてのレポートも書いている。		虐待についての研修会にも参加している。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族とは連絡を密にし、入居者とも話し合いをし納得して頂けるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>施設長やホーム長が、頻回にホームを訪れ、利用者とは話をしたり職員に様子を聞くことで、意見など話しやすい状況を作っている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>2ヶ月に一度の機関紙や、3か月おきと、状況の変化に応じて近況報告を各家庭に送っている。また、訪問の際にも職員が利用者の状態などを報告している。また、家族と疎遠にならない働きかけとして、イチゴ狩りや夏祭り等、参加型の行事を企画し、参加を募り実行している。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の方が訪問された際など、意見や苦情を話しやすい環境になっている。また、家族会を開き、発言できる場を設けている。苦情などが出た場合には、その都度話し合いをし、速やかに改善していくよう努めている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や普段の会話の中から、職員が運営に関する考えを述べる機会が設けられている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況の変化に伴った勤務の変更を行い調整している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>豊幌にある同社のグループホームの職員とも、互いに施設を行き来したり、合同で行事を行うなどして馴染みの職員として接することが出来るように配慮し、移動や離職によるダメージを防いでいる。</p>		<p>職員同士で情報交換を密にし、より利用者と馴染めるように取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>内部の研修では、介護福祉士の勉強会などを行っている。外部の研修では防火管理者研修や、職員の段階に応じてリーダー研修などに参加し、トレーニングを進めている。</p>		<p>今年度は実践者研修、管理者研修、高齢者虐待についての研修等に参加している。また、研修に行った職員が勉強会を開き、得た成果を他の職員と共有しケアの質の向上に努めている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市内グループホーム代表者の集いを開き、地域の同業者と交流する機会を持っており、相互の訪問も行い情報交換をしている。また、毎年市内のグループホーム交流会を開催しており、その際の会議においても職員同士が交流する機会となっている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>運営者は職員の状況を把握できるよう、日々の業務終了の報告や、主任からの報告、職員とのコミュニケーションをとることにより、ストレスの軽減に努めている。また、親睦会や新・忘年会などを行うことにより、お互いに話しやすい環境を作っている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>研修や勉強会、資格取得などを行い、職員の向上心への働きかけ、それを維持していけるよう努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>運営者や職員が直接本人と話をし、何を知りたいか、どのようなことで困っているのかを把握し、受け止めるよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>運営者や職員が直接家族と話をし、何を知りたいか、どのようなことで困っているのか、今後どうしていきたいのかを把握し、受け止めるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームからも積極的に話しかけ、入所者の生活や様子を伝え、家族からの相談や要望も聞くように配慮している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員が利用者の間に入り、安心できるよう心がけている。家族の要望にも耳を傾け、場の雰囲気に馴染めるような対応や声掛けの配慮を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に利用者との会話を多く持ち、話を聞くことに重点を置き、利用者一人ひとりに合わせた雰囲気ですべて接している。日常生活においても、調理時や食器洗いの時などの、汚れの落とし方、昔ながらの方法をおしえていただくなど、自然に支えあう関係が出来ている。		調理・片付け・掃除・買い物等、利用者と職員で作業している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	陶芸・イチゴ狩り・夏祭りのお手伝い等、多数の行事においてお互いの喜び楽しみを共有している。面会は常に歓迎している。遠方でそれが叶わない場合は、電話や手紙での交流も積極的に行なっている。		一定の入居者について支えあう関係が活発であるとは言い難い状態であるものもいるが、ホームとしては引き続き各種案内や連絡を取り続け、支援の輪を増やしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日常生活の様子を2ヶ月毎に写真入りで機関紙を身体状況や生活の様子を近況報告として発送している。行事案内を送付する等、家族と本人を結ぶ働きかけを行なっている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームはマイクロバスを持っていて、入居者の外出の希望を叶えている。また、馴染みの方がいつでも気軽に訪れるよう配慮している。		買い物時、入居者の馴染みの方に会う機会があり、初めて会う方には、施設長が名刺を渡し、いつでも訪ねてきてくださいと話されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は利用者同士の関係を把握するよう努めている。共同空間ほ中に利用者同士が自由に過ごせるような居場所を確保している。常に職員は、利用者の間に入り関わりを支えるよう努めている。		散歩や外出等において、さりげなく利用者同士で手を繋いだり、声を掛け合える雰囲気作りをしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホーム側はいつでも相談を受け入れる体制にある。また、ななかまど祭りの案内を送付する等、継続的な関わりを持っている。いつでも気軽に尋ねられるよう配慮もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	人間としての生活が保てるよう入居者一人ひとりの尊厳を尊重し、自分のペースで生活していただいている。職員は一人ひとりの希望や自己決定など本人の意向にそよう、又本人の思いに近づけるような援助に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	居室には使いなれた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過ごせる場になっている。又、生活歴から本人の得意な事を把握し、活躍の場を広げている。		センター方式を用いて、本人を理解するツールとして活用している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日を通して利用者一人ひとりをよく観察し、申し送りやケース記録を用い状況を把握している。また、各職員が情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者主体の介護計画をセンター方式により、全職員の出席する職員会議にて意見、アイデアを取り入れ作成している		原案は家族に送付し確認していただいている。また、入居者の居室にも掲示しており必要な場合は話し合いの場をもつ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員会議にて意見を取り入れながら3ヵ月ごとの見直し・作成を行なっている。又、見直し以前に変化があった場合は新たな計画を作成し、家族にも確認してもらっている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者一人ひとり個別記録をしている。ニーズに対してのサービス内容を細かくし数字(サービス内容)に置き換えることで、より細かな援助内容を個別に記録する工夫ができています。その他、気づきや工夫がある場合は個別記録に記入し、その他に朝夕2回の申し送りにて情報交換を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて柔軟な対応を行なっている。(外泊が困難な利用者には家族に泊まりに来てもらうなど)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近くの消防署に届けを提出し、年に何度か防災訓練を行っている。また、救急救命講座や防火管理者講習にも参加している。近隣の中学生や高校生・専門学校・大学生などボランティアも受け入れている。		話し相手や庭の草むしり、歌のボランティアの方々に来ていただいている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ケアマネジャーの集いや市内グループホーム代表者の集いに参加し、情報交換を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター職員と常にコンタクトを取っており、運営推進会議やケアマネジャーの会などによりアドバイスをいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療を実施しているかかりつけ病院(野幌病院)を確保しており、院内に気軽に相談できる相談員がいる。また、看護師資格を持つ職員を配置しており、日常的に利用者の健康管理を支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	野幌病院のドクターによる、勉強会や、訪問診療時に相談している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師資格を持った介護職員が在籍しており、利用者の健康管理をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の病院と連絡を密にし、家族とも連絡を取りながら話し合っている。また、リハビリ等グループホーム内で行える場合は、病院関係者との情報交換を密にして早期退院できるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身体状況の異変・重度化した場合は医師・家族と共に話し合いをしている。また、その情報・方針をケース記録への記載や、申し送りを通して職員全員が共有している。また、運営推進会議等でターミナルケアについて家族と話し合う機会を設けている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医の指導を受けながら出来ることを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際は介護支援事業所からご本人の情報提供を頂き、退居の際は同様に入居する先へ送っている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者は「お客様」であり、介助しているのではなく、介助させて頂いているという意識を持ち、接している。また、個別化や受容という基本的で大切なことを忘れず援助している。個人情報に関しては職員全員が誓約書を書き、厳重に取り扱うよう徹底している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の自己決定を重視し、本人の分かりやすい説明・コミュニケーションをとりながら、時間がかかっても可能な限り自分で選択して頂いている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>各入居者の生活歴や得意なことを把握し、自分のペースで希望に沿った生活が出来るよう支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節や機能性に配慮しつつ、本人の意思・個性を尊重したおしゃれが出来るように支援している。理美容は2ヶ月に1回訪問理美容を利用し、利用者さんにもご満足して頂いている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの残存機能を活かして、調理や盛り付け、配・下膳など、出来ることを職員と一緒にやっている。また、好き嫌いのある利用者さんには栄養バランスにも配慮しながら個別のメニューを提供している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在喫煙する入居者はいない。飲酒は外出・外食時に身体の影響を考慮し、問題ない入居者には楽しんでもらっている。おやつは健康上問題ない人には自室でも楽しんでもらっているが、状態に合わせてホームで管理している。毎日のおやつに関しては、楽しめるように目先を変えて準備している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各入居者の排泄パターンは概ね把握しており、時間毎など必要に応じて声掛け・誘導を行っている。その際、自尊心を傷つけないよう一人ひとりに合わせた配慮をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	特定の入浴日を設けていない。毎日入浴できるよう準備しており、希望や状態に応じて入浴して頂けるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中に散歩や手伝い、体操などをして運動不足を解消し、夜間安眠できるように支援している。不安や混乱がある時には安心や落ち着きが得られるように対応し、疲労時には居室にて気分転換や休憩が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりが家事の分担や庭の野菜作り及び収穫など、お手伝いや得意なこと、楽しめることを行い、充実した日常生活が送れるように支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な入居者に関しては見守りにて買い物をして頂き、不可能な入居者に関してはホームとして預かり支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩など積極的に行なっている。外食や行事を大いに取り入れ、入居者の楽しみの一つとなっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	マイクロバスを所有しており、積極的に外出の機会を提供している。外食・ドライブ等や地域の行事にも参加。イチゴ狩りや敬老会など家族参加の行事を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族からの電話は、その時の本人の状態を見極め本人と代わりお話ししていただいている。こちらから掛ける場合も同様である。また、年賀状を書いて送っている。		母の日などに贈り物が届いた際には、本人と一緒にお礼の電話をかける等している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	多くの家族が訪問している。湯茶等を居室で気軽に楽しめるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期的実施し、各職員に伝達。「身体拘束はしない」というのが、全職員の共通した考えであり、実施している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に施錠をしないでセンサーを設置している。入居者の動き、言動の把握により、鍵の掛かっていない玄関ドアより不意に外出しないよう注意している。また、外部の人が無断で入ってきてもすぐに気づけるように注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	2階に居る利用者の所在が分かりずらく、ドアにセンサーを設置している。一人で居室にいる事が困難な利用者は、職員の居る居間で過ごして頂く。また本人の希望や状態によって居室で過ごしていただき、職員は常に目を配らせ安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の目に触れない所に保管場所を定め実行している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故を起こさないよう、日頃から話し合いをしたり、事故報告書は時系列で詳細に記録し原因を究明して同じ事を繰り返さないように努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防の救命救急講習会を受講している。また、訪問診療実施の掛かり付け医を確保している。看護資格を持った職員が在籍している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署員の立会いの下、春・秋(日中・夜間)の防災訓練を行っている。また、地域の行事にも積極的に参加し、日頃から協力をお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族とは情報交換を蜜にとっており、伝達事項等の内容も記録している。本人が楽しく生活できるよう、職員で話し合い行動している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定を行なっている。その他にも常に利用者の顔色や様子にも注意し、体調の変化や異変がないか観察している。気がついた際には、申し送り、ケース記録に記載し情報を共有し又、口頭などでも施設長や他職員に伝えている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病院からもらってくる薬剤情報提供書をファイルにまとめ又、各個人のケース記録にもまとめ解りやすくしている。薬剤の追加や変更があった場合も同様にケース記録、申し送りに記載して情報を共有している。薬は各個人にその都度手渡し、その場で飲んでもらい、誤飲や飲み忘れをしないよう努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日誌に排便状況、1日の水分摂取量を一目で解る様に記載している。水分を取りやすくする為、ゼリー食等、本人が無理なく摂取できるよう工夫している。体操や外出を日常的に取り入れ、身体を動かす機会を多くしている。	○	日頃から管理栄養士から、食事の工夫について指導を受けている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアを行なっている。その際全てを介助者が行なうのではなく、本人の出来ない部分を介助している。口腔内の観察を行い、異常があった場合は歯科受診している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日誌に、1日の食事量、水分摂取量を一目で解る様記載している。刻み食やゼリー食等、個別に食べやすいよう工夫している。又、管理栄養士の指導の元にメニューを決めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染予防対策委員会を設置しマニュアルを作り、それに添った介助を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日台所の清掃・消毒を行っている。毎食後、食器、調理器具の洗浄・乾燥(拭き残し・こびりつきの確認)を行っている。週1回冷蔵庫の清掃・消毒を行っている。随時入居者・職員の手洗い・手指消毒・うがい・爪切りを行っている。食事毎に台拭き・ふきん・手拭いの交換・洗浄・消毒を行っている。新鮮な食材を購入し、調理の際には、洗浄・十分な加熱処理をしている。毎食料理はその都度作り、作りおきはしていない。		管理栄養士の指導のもとに職員は理解を深めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	もともとアパートだった建物を改築したホームで、地域に溶け込み親しみ易い外観になっている。玄関前に大きなカーポートを設置しており、雨や雪に濡れることなく家族や施設の車に乗降できる。高い塀や門を設置しておらず、近隣の方と顔を会わせて挨拶ができる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃(職員・利用者)を行い、汚染時には職員が素早く対応し、不快無く過ごせるように努めている。テレビは適切な音量にしている。日差しの強い日はレースのカーテンを使用。エアコンや窓の開閉、換気扇などで空調を管理している。季節ごとに花などの飾りを変えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の状況に応じた座席配置になっている。居間には畳みの小上がり、廊下・2階ホールには畳みの長いす、ベンチを置き、利用者が自由に使用出来るようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた家具や本人の使いやすい家具を使用し、利用者が自室で穏やかに過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節や天気に応じて窓を開閉して居室の換気を行っている。居間や廊下では換気扇や窓の開閉・扇風機・エアコン・ストーブを利用して適温・適湿を保てるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内はバリアフリーになっており、廊下や玄関など要所に手すりを設置している。また、常夜灯・フットライト・センサーライトを要所に設置している。</p>		<p>色のついたテープを用いて、階段や手すりをわかりやすいように工夫している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室のドアに利用者氏名を表記したり、注意書き等要所にはり、本人が自分で解る様工夫している。利用者の行動や言動に気を配り、必要に応じて見守りや声掛けを行うことにより、混乱や失敗を防ぐよう努めている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>洗濯物を干したり、家庭菜園を楽しめるようにしている。また、カーポートの下でバーベキューや夕涼みをして過ごすことができる。</p>		<p>夏祭りの出店会場としても外回りを活用している。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)等を自由記載)
マイクロバスを利用して外出やななかまど祭りの開催、町内会の行事参加など積極的に地域との交流を取っている。
マニュアルを廃止し利用者個人のペースに沿った介助支援を行っている。